

年 組 名前：

問1

都留市の宝小が、1、2年生を対象に、
英語に親しむ時間を設けている理由を
教えてください。

.....

.....

.....

問2

英語に親しむ時間の活動は、
いつ、行っていますか。

.....

問3

活動を担当している先生の名前を
二人教えてください。

.....

.....

問4

「チャンツ」とは、どのような英語学習ですか。

.....



都留・宝小 1、2年生 英語に触れる

都留市の宝小は、1、2年生を対象に、英語に親しむ時間を設けている。授業ではなく校内活動の位置付けで、児童らは楽しみながら基本的な単語などを学習。3年から始まる外国語活動に円滑に接続する狙いがある。「スノー」「サンタクロース」。昨年12月、宝小の

語に触れる機会を確保し、切れ目のない英語教育を実現する「市教委担当者」として導入した。活動は毎週金曜日の給食後に20分ほど行っていて、フランス出身のアマンディヌ・デュシェーヌさん（29）と、同校の外国語指導助手（ALT）ダスティン・ウッズさん（31）が担当。

宝保育所でもアマンディヌさんに英語を教わったという1年の藤田朔生（11）は、「また先生から英語を学ぶことができてうれし。英語がどんどん楽しくなってきた」と笑顔。2年の落合真広（10）も「すごく勉強になる。外国の人と話せるようになったので、もっと英語を勉強したい」と意欲を語った。

- ・所在地 都留市大幡1143
- ・全校児童 82人
- ・創立年月日 1873年6月1日
- ・学校教育目標 確かな学力と豊かな心と健康な体をもった児童の育成

楽しみながら単語学ぶ



12

多目的室。小学1、2年の児童たちは、身ぶり手ぶりを交えながら楽しそうに英語を口にしていった。活動は子どもたちの国際感覚や基礎的な英会話力を育てる「グローバル・ウィング事業」の一環。3年から始まる外国語活動に向け、「1、2年の間に英語に触れる機会を確保し、切れ目のない英語教育を実現する」という市教委担当者として導入した。活動は毎週金曜日の給食後に20分ほど行っていて、フランス出身のアマンディヌ・デュシェーヌさん（29）と、同校の外国語指導助手（ALT）ダスティン・ウッズさん（31）が担当。

英語の教員でもある平井成二教頭は「児童は体を動かしながら、楽しそうに活動に参加している。英語に慣れ親しむという点で効果は大きい。低学年での経験を活かして、今後の英語学習につなげ、苦手意識を持たずに学んでほしい」と期待を寄せた。〈森航平〉

(2026年1月17日付 山梨日日新聞 16面)